

令和 3年 9月

錦信吾 学位論文審査要旨

主査 黒沢 洋一
副主査 千酌 浩樹
同 尾崎 米厚

主論文

Syphilis in heterosexual women: case characteristics and risk factors for recent syphilis infection in Tokyo, Japan, 2017-2018

(異性間性行為女性における梅毒:梅毒症例の特徴ならびに梅毒感染のリスク因子、東京、日本、2017-2018年)

(著者: 錦信吾、有馬雄三、山岸拓也、濱田貴、高橋琢理、砂川富正、松井珠乃、大石和徳、大西真)

令和2年 International Journal of STD & AIDS 31巻 1272頁~1281頁

参考論文

1. Epidemiology, molecular strain types, and macrolide resistance of *Treponema pallidum* in Japan, 2017-2018

(梅毒の疫学、梅毒トレポネーマの分子型及びマクロライド耐性、日本、2017-2018年)

(著者: 錦信吾、有馬雄三、金井瑞恵、志牟田健、中山周一、大西真)

令和2年 Journal of Infection and Chemotherapy 26巻 1042頁~1047頁

審査結果の要旨

本研究は、2017年6月から2018年3月の間、東京都内のクリニックで梅毒抗体検査を受けた20歳以上の女性を対象に、異性間性的接触による梅毒感染リスクについて検討した症例対照研究である。過去半年以内の性風俗従事歴が感染リスクとして示唆され、風俗の種別は登録制の店舗型及び非店舗型風俗が主であり、個人によるものは症例、対照ともに2割未満であった。また、出会い系サイト・SNS等を介した性行為相手との出会いと梅毒感染とに有意な関連を認めなかった。性風俗従事歴がある者では、コンドームの不使用及び不定期使用が梅毒感染の危険因子であった。従事歴のない者では、若年であることと高等学校卒業までの最終学歴がリスクとして示され、特定の社会経済的階層に感染が広がり始めたことが示唆された。本論文の内容は、日本の性感染症の分野で、対策につながる危険因子の特定という重要な知見を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。